教育にかけた命 ―青山信一郎―

昭和二十七年十月三十日、宮城県塩釜市浦戸諸島の寒風沢島にある元屋敷海岸には、数十名の教育関係者と多くの学生が集まっていた。二十二歳の若さで教育活動中に亡くなった一人の教師、青山信一郎の死を惜しむ人々である。この日、彼の死を悼み、彼の教育に尽くした純粋な思いを後世に伝えるべく、建立された碑の除幕式がしめやかにとり行われたのである。

塩釜女子高等学校で始まった、信一郎の教員生活は、彼の人柄そのものであった。いくつかのエピソードが、彼の死後、教え子たちによって明らかにされている。

信一郎が、何よりもこだわったのが理科の実験活動であった。きめ細かい計画を立て、実験前には必ず自分で予備実験を行った。納得できる結果が得られるまで何度も繰り返され、時には深夜に及ぶことさえあった。また、実習で校外へ出かけるときには、最低三回は事前の下見を欠かさなかったという。

何事も用意周到で慎重な信一郎であったが、反面、二十代前半の若者らしい、熱血教師ぶりも見られた。クラス対抗球技大会の前日のことである。弱気になりがちなクラスの雰囲気を盛り上げるため、信一郎は雨の降りしきる中、グランドに生徒を連れ

碑
後世に伝えるために先人の事跡・氏名などを石に刻んで建てたもの。

出す。そして、笑顔で生徒を励ますと、自ら先頭に立って、泥にまみれながら練習を行ったという。また、体育祭の当日は、すべての種目で、出場した生徒一人ひとりの名前を大声で呼びながら、声を限りに応援をした。そのため、体育祭が終わる頃には、信一郎ののどは、すっかり声が出なくなってしまったという。

また、進級のかかる大切な試験の朝には、何も言わずに、一言「ガンバレ！」と黒板にチョークを走らせ、生徒を励ましていた。

信一郎が二十二歳の若さで殉職（じゅんしょく）したのは、彼自身二回目の、夏の合宿臨海実験二日目のことであった。朝九時の寒風沢島元屋敷海岸は、ちょうど干潮（かんちょう）時でもあり、ところどころに磯が現れていた。ウニやナマコ、海藻（かいそう）類などの海洋動物の採集には、最適な状態であった。信一郎は、採集活動のポイントと注意点を説明すると、女生徒たちを磯場へと送り出した。生徒たちは、朝の冷たい水の感触に歓声を上げながら、思い思いの磯場へと散らばっていった。信一郎自身も、お目当ての海洋動物を探しながら、そんな楽しげな生徒たちの様子を見守っていた。ひとしきり、採集活動が進み、そろそろ休憩時間を取ろうとしていた矢先のことであった。信一郎から十mほど離れた浅瀬で採集活動をしていた二人の女生徒が、突然海の中に消えた。

殉職
職責を果たそうとして命を失うこと。

水面をおおう海藻によって見えなくなっていた深みにはまったのである。あちこちから悲鳴が上がった。浮き輪を持って走り出す生徒が見え、助けを求めて叫ぶ声が聞こえた時、信一郎は何が起きたのかを理解した。二人が消えた深みまで猛然と駆け寄ると、一瞬の迷いもなく水に飛び込んだ。ほどなく、一人は自力で浮かび上がり、友達の投げた浮き輪にしがみついた。そして、もう一人の生徒は、信一郎に抱きかかえられるように水面に顔を出した。意識がないのか、女生徒は信一郎の腕の中でぐったりしている。信一郎は女生徒をかかえながら、それでも必死で近くの岩場まで泳ぎ着こうとしている。

「がんばれ、しっかりしろ。」

「大丈夫、大丈夫だから。」

信一郎の生徒を励ます声が、海面に響き渡る。しかし、磯場の引き潮は早く、強かった。信一郎がどんなに必死で腕を動かそうとも、岩場に近づくことはできなかった。二人は、浮いたり沈んだりを繰り返しながら、徐々に沖へ沖へと引き離されていった。そして、やがて、二度と浮かび上がってはこなかった。

信一郎を偲ぶ声は、彼の死後、少しずつ少しずつ広がっていった。はじめは、教え子たちから、やがて同僚の教師へと広がっていき、そして、とうとう宮城県全体へと広がっていった。信一郎の生きざまを刻んだ碑を作ろうという声は、そんな広がりの中で、自然と生まれてきたものであった。

快晴の松島湾に、秋の潮風に乗って、汐音が広がる中、除幕式の最後は、一人の教え子の追悼の言葉で閉式となった。言葉は次のようにしめくくられていた。

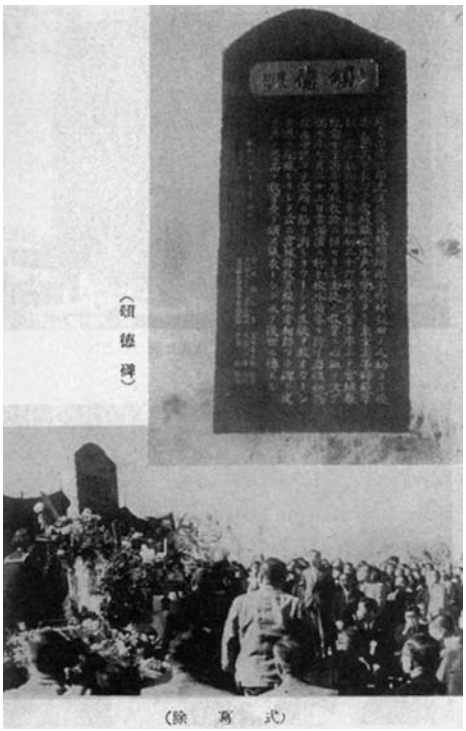
「先生、どうぞ安心して天国から見守ってください。私たちはいつまでも、青山信一郎の教え子なのです。」

汐音＝潮騒

寄せては返す波の音。

追悼

死者の生前をしのび、その死をいたみ悲しむこと。



顕彰碑と追悼集会

「那珂市ゆかりの先人たち」より

青山信一郎

昭和五年、茨城県那珂郡芳野村飯田（現在の那珂市芳野）生まれ。両親は高校教師で、幼いころより父と母の背中を見て育つ。小学校時代は、クラスを盛り上げるムードメーカー的な存在。旧制中学（現水戸一高）では生物・科学の分野に興味をもち、高等師範学校（現筑波大学）進学後は、海洋生物の生態研究に集中する。宮城県塩釜市立塩釜女子高等学校教諭となる。